



松林小だより

令和4年1月11日
学校便り No.11
羽村市立松林小学校

東京都羽村市羽4122-2 電話 042-554-7800



新年を迎えて

校長 鳥居 タ子

令和4年が始まりました。元日は晴天、晴れ晴れとした気持ちで、新年を迎えた方も多かったのではないのでしょうか。今年一年がどのような一年になるのか、予測不能ではありますが、今年も児童の安全と安心を第一に教育活動を続けてまいります。

晴天に恵まれたお正月の三が日でしたが、その後の大雪やオミクロン株の猛威ですっかり気持ちが沈んでしまった方に朗報です。今年の干支は壬寅（みずのえとら）です。詳細に言うなら、十干（じっかん）が壬（み

ずのえ）で十二支（じゅうにし）が寅（とら）ということになります。この壬と寅の組み合わせである壬寅は、厳しい冬を超えて、芽吹き始め新たな成長の礎となるイメージだそうです。コロナウィルスの蔓延によって、生活が大きく変化しました。たくさんの犠牲を払い、耐え忍んできましたが、今年は良い方向へ向かっていくことが期待できるかもしれません。希望をもって、令和4年をスタートしましょう。

さて、新年を迎えて、私たち大人が、新たな一年も子供たちの気持ちに寄り添った指導や支援ができるよう、一冊の絵本をご紹介したいと思います。小学館から出版されている「おこだでませんように」（作 くすのき しげのり 絵 石井 聖岳）です。この絵本は、15年ほど前に私が特別支援教育についての研修会で講師の方から紹介された本です。講師の方が研修会の最後に読み上げてくださいました。ページが進むごとに、それまで出会ってきたたくさんの子供たちの姿と重なり涙があふれ、止めることができませんでした。それからというもの、私の教員としての一番のバイブルとなっています。

主人公は小学1年生の男の子。せっかく小学生になったのに、家でも学校でも叱られてばかりです。楽しいと思ってしたことややりすぎてしまったり、良かれと思ってしたことが、大人の都合で怒られてしまったりと何をしても思うような結果になりません。そして、「自分は悪い子なのだろうか」と悩み始めます。そんな男の子が七夕の短冊にお願いを書くのですが、それが「おこだでませんように」の一言でした。その短冊を読んだ担任の先生は男の子の気持ちに気がきます。そして、「これまで叱ってばかりでごめんね」と涙を流して謝ります。担任は母親へも連絡します。母親は主人公に対して「怒ってばかりだったね。ごめんね」と抱きしめてくれます。七夕のお願いが叶った男の子は大喜び。その夜「もっともっと良い子になります」と七夕様に誓うというお話です。

人は誰でも褒められたい。まして幼い子供であれば当然です。しかし実際は「褒めるところがない」「褒め方がわからない」と悩む大人も多いと思います。それは、その子の言動をそのまま受け止めているからではないのでしょうか。子供たち一人一人がそれぞれ違う感性、個性を持っています。大人の思うようにはいかないものです。その上で、私たち大人が子供の気持ちを想像し理解しようと努力することが子供の気持ちに寄り添うことになると考えます。たくさんの可能性を秘めた子供たちと関わり、触れ合いながらその子供の良さを引き出ししていくことが大人の使命です。今後も保護者や地域の皆様には、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、本年も松林小学校の教育活動にご理解とご協力をお願いします。